

都繪馬鑑
四

~~E
152
4~~

逍遙文庫
文庫6
1307
4



都繪馬鑑四之卷目錄

目錄

大佛殿石曳之圖

清和院 筆者不知

。堂間中橫四尺

五郎丸抱止曾我時宗圖

北野

山本理兵衛画

。堂五尺橫五尺七寸

卯籠

上御靈

鈴木庄左衛門作

馬之圖

清水寺 將野縫殿介画

。堂一間橫二間

異國人歌舞之圖

清水寺 筆者不知

。堂四尺五寸橫五尺



附録

前編扁額軌範小寫出凡九經馬救品画と專と
し其傳代闕く今是と補て所添と加つる古代の人物
其抄出して好古家の觀小侍一者君子初編を二需と
合看於子也

都繪馬鑑四之卷

○大佛殿石曳之圖

七年松通一乘の北清和院幸至り

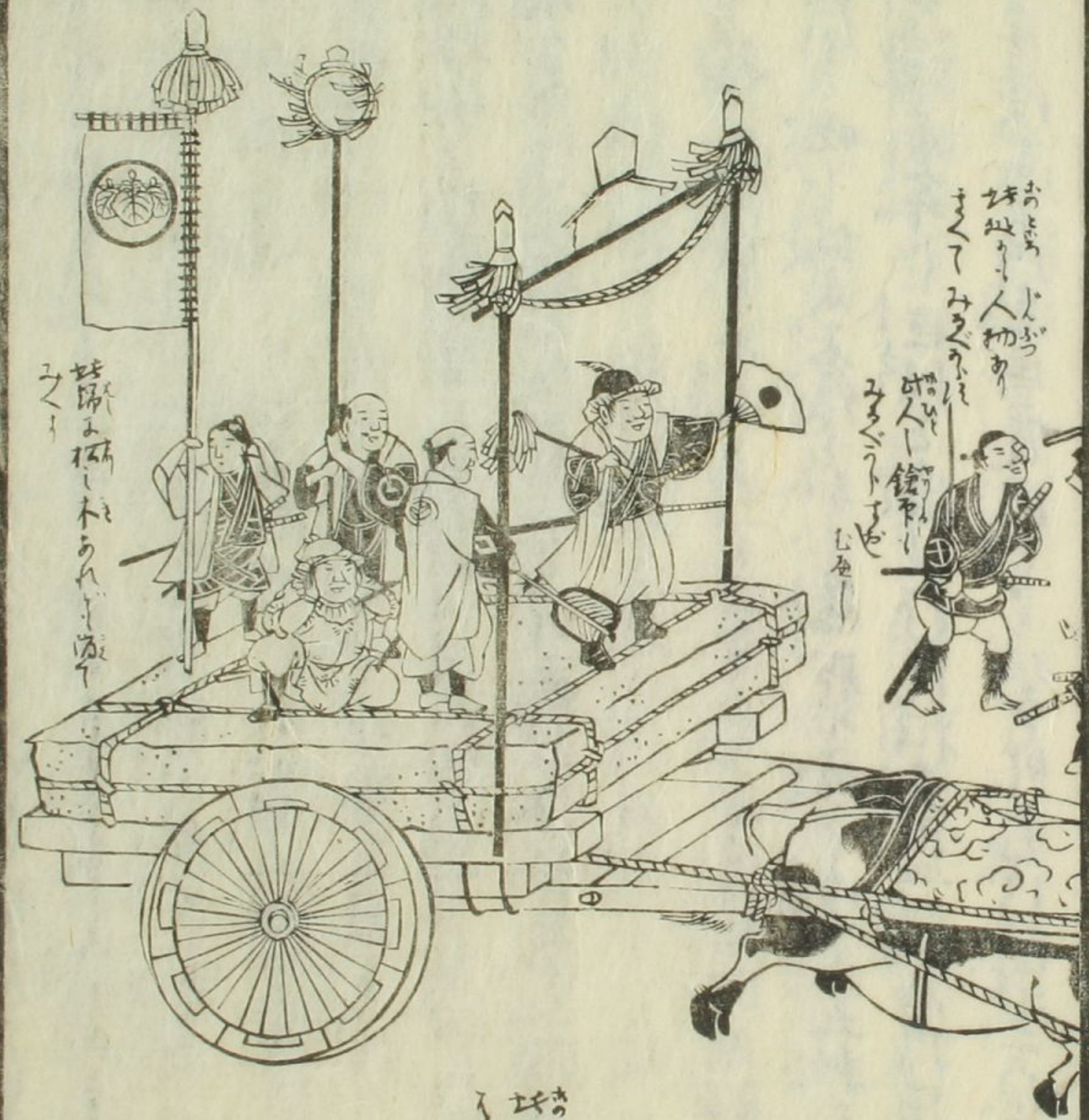
掲ぐ画人如良

大佛殿を法東寺山の麓にあつた。方廣寺と号す



○大園記大佛殿の案に云 四方石垣の半始をわたりんあつた。は
弘法表へ小舟で石をも小舟の盜に取に使も安久しと事おこつた
と云て庫々築壘し好下涌生花守引し石を二回も四つを
勢をなす引けり。石をもとをわたりし。本港のまはり
まふよの川をい見ゆる。徳押もかみぬ身。白川のまはり
五ヶ年及七月

○豊後家清云 林通春作 是年秀右滑く東山に
はくはくは徳長院云以清性指田長来に命とて曰者



浮城五郎
 木下五郎
 子之

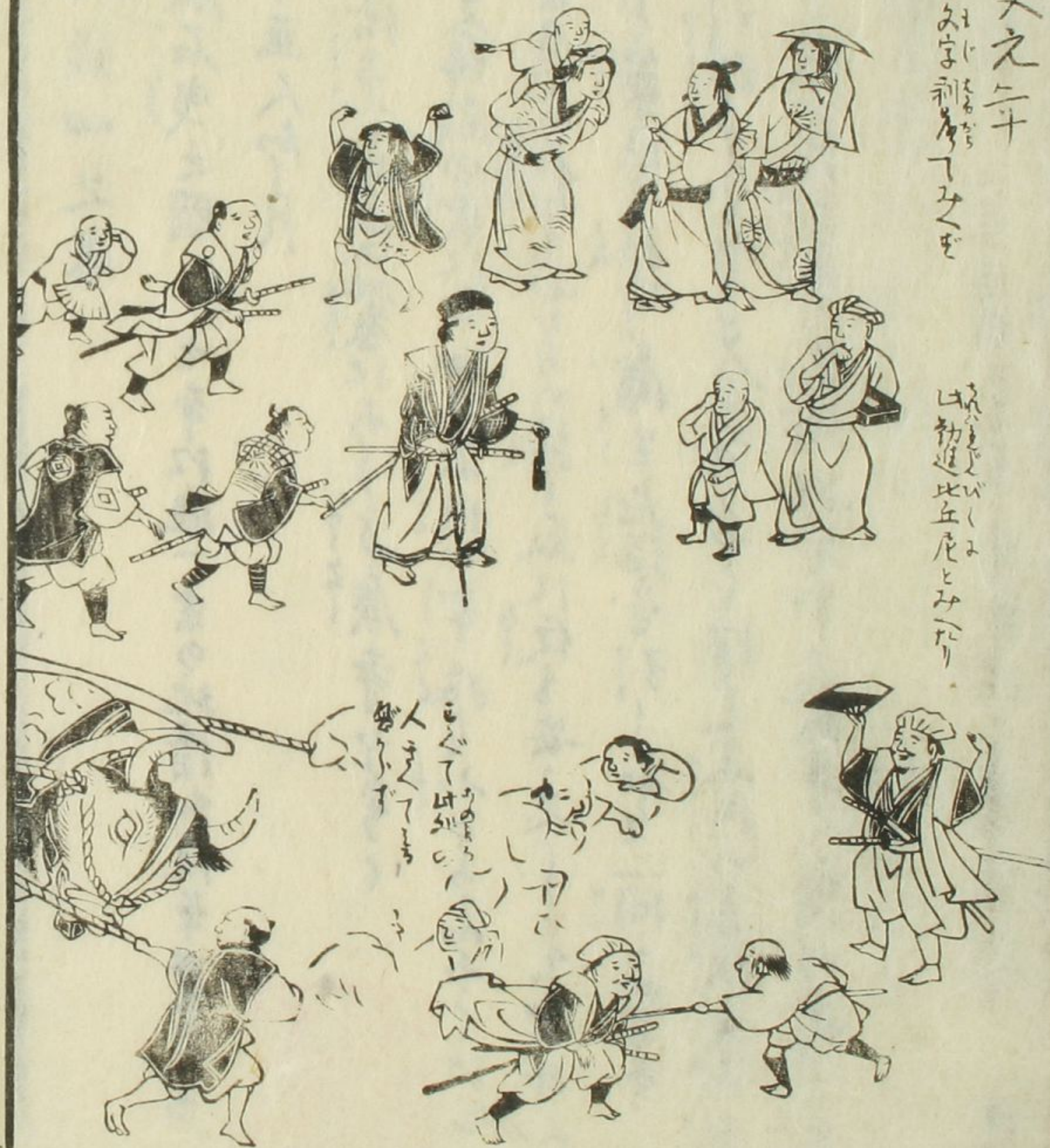
おたあ
 浮城五郎
 まくろみ
 浮城五郎
 子之

浮城五郎
 木下五郎
 子之

寛文之二十

舟のあはれ

は初遊



浮城五郎
 木下五郎
 子之

を歴々其功成る。是度之五年あり其功を修て。汝等其功を
呈示す。皆之を以て。其會し。後之先之。其功を修て。汝等其功を
び工人を召く。又上佐九州信長本曾。紀元然世に監使二十人。工師二十人を
擇り。群國に遣して材木を伐く。む四國九國の人を。其功を修て。汝等其功を
本以斬艾。其功を修て。汝等其功を。伊勢尾張。其功を修て。汝等其功を
入材木を伐取。其功を修て。汝等其功を。其功を修て。汝等其功を
乃人々之の。其功を修て。汝等其功を。其功を修て。汝等其功を
相。其功を修て。汝等其功を。其功を修て。汝等其功を
考。其功を修て。汝等其功を。其功を修て。汝等其功を
其功を修て。汝等其功を。其功を修て。汝等其功を
負。其功を修て。汝等其功を。其功を修て。汝等其功を
寺。其功を修て。汝等其功を。其功を修て。汝等其功を

高さ十六丈是旧式なり。今敢て遠り。其功を修て。汝等其功を
監。其功を修て。汝等其功を。其功を修て。汝等其功を
人。其功を修て。汝等其功を。其功を修て。汝等其功を
是。其功を修て。汝等其功を。其功を修て。汝等其功を
柱。其功を修て。汝等其功を。其功を修て。汝等其功を
以。其功を修て。汝等其功を。其功を修て。汝等其功を
魁。其功を修て。汝等其功を。其功を修て。汝等其功を

○慶長元年大坂町。大坂乃大坂を修て。汝等其功を
○同七年。其功を修て。汝等其功を。其功を修て。汝等其功を
○同十二年。再建あり。其功を修て。汝等其功を
○寛文二年。其功を修て。汝等其功を。其功を修て。汝等其功を
○大坂町。其功を修て。汝等其功を。其功を修て。汝等其功を
○雷。其功を修て。汝等其功を。其功を修て。汝等其功を
○雷。其功を修て。汝等其功を。其功を修て。汝等其功を

かきとて一車之水姓氏に... 寛永二十一年... 山幸理兵衛画... 北野社繪馬堂に掲ぐ

五郎丸抱止曾我時宗之圖

寛永二十一年 山幸理兵衛画

伊豆國の住人伊孫祐高とりの者あり女子二人をり山幸理兵衛画

伊孫祐高とりの者あり女子二人をり山幸理兵衛画... 親は其の妻也不持... 親は其の妻也不持

伊孫祐高とりの者あり女子二人をり山幸理兵衛画... 親は其の妻也不持... 親は其の妻也不持

奉掛御寶前
諸願成就之所
願主速水六兵衛
白敬



宿坊
能喜

寛永二十一年霜月吉日
山本理兵衛筆



○異國人情舞之圖 清水 義應四年 由名日記

け國は今ももろく大竺の人をもろくは新く東京交趾の人おまん頭羅の伴
 と被國の吹舞をんまろく。東京の漢土後て西國の開ふある國之日本が海
 しふた百里洋の地しふえんまろく交趾の地より近來東京交趾一國より
 なる。國々年備はるは西國の界にキヤンと云ふ山ありけふの肉桂をくさく
 しとて其山を越るくまろく肉桂を人おまん頭羅の伴とて
 者おまん頭羅の伴の衣振ふ知る。人の形をもろくは



永應四歲

宿坊執行

中嶋信長

女を日本の下姑の
 者おまん頭羅の伴
 暖玉より浮土乃
 下姑よりひて浮土
 の文字を因ひて
 の郷後

前 諸願成就令満 足

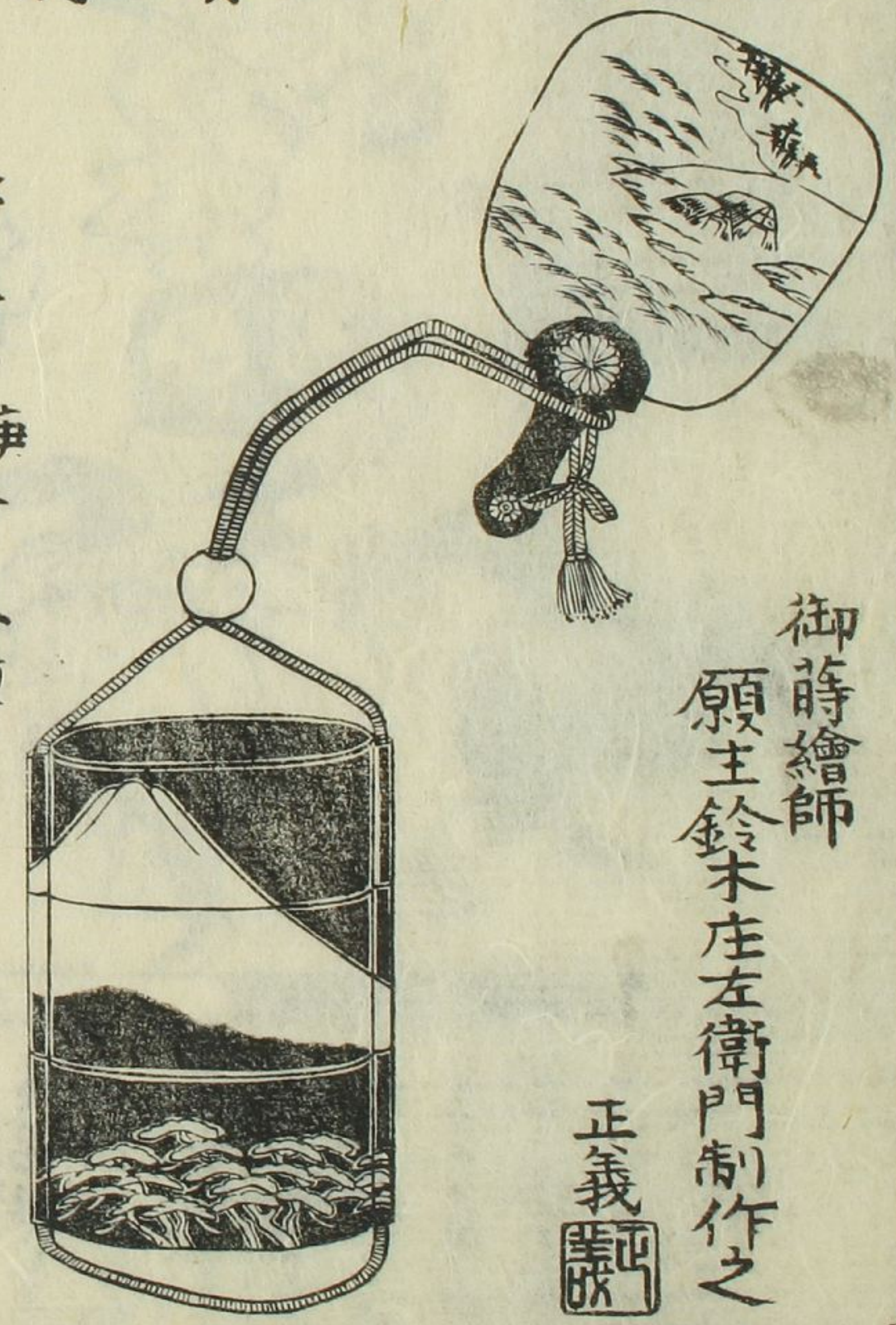
和二月吉日



異なる者を知て
 おまん頭羅の伴
 文字を用ひて
 手振りを用ひて
 交趾を東京
 今より安南國
 漢土より浮土
 文字を用ひて
 笑を以て
 東京より日本
 千百里洋より

奉懸御寶前

寶曆十辰年林鐘吉日



御時繪師
願主鈴木庄左衛門制作之

正義

○卯雜 上卿矣 あり 宝曆十年 蔭経師 鈴木庄左衛門の作

市統と幸印判肉を入る具あり 今蓋を入る蓋を蓋と云
 二をいふ物あり 暇もあて 途中に信長の周長も 小島丹波龍光も 坂本幸三も
 目極あり 其叔丹美と行ふ 龍光を信と 梅岡をいふ 幸三の官給小川

○齋藤實成並篠原合戦之圖

齋藤長井別當実盛と田村將軍の法胤斎藤義隆と直子幼の畠の河合を
 即ち大助房は并後一節を又実盛を以て武勇力に譽あるにあり 小松田村
 重盛が死を得て武勇武隆別當より 長井郷に住と云い 武勇村友たが
 がいふなり ○一説は 布衣の者なり 幸三の官給小川

○永承二年 木曾義仲を征伐して 平家の大将小松左衛門維盛は馬頭
 初盛は藤原忠実の弟と伝通盛の河合を 知成十萬石給を 幸三が加賀越前守の
 俣野に 義仲と 藤原忠実の弟と伝通盛の河合を 知成十萬石給を 幸三が加賀越前守の
 て 形者 義仲が 加賀國小川退く 義仲が 越前守に 義仲が 越前守に 義仲が 越前守に

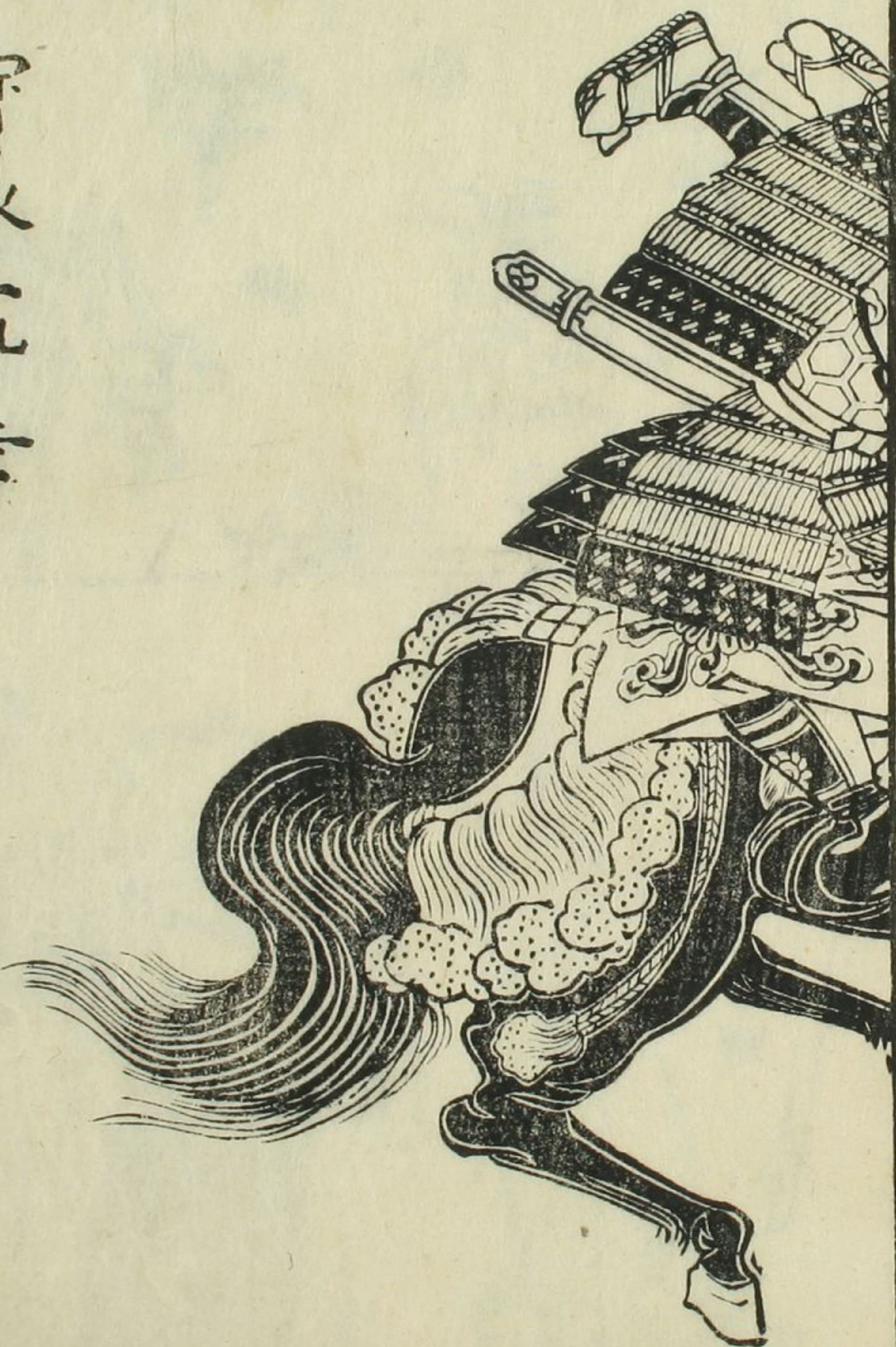
寶永二乙酉年

五月吉日

宿坊

長吏

宝光院



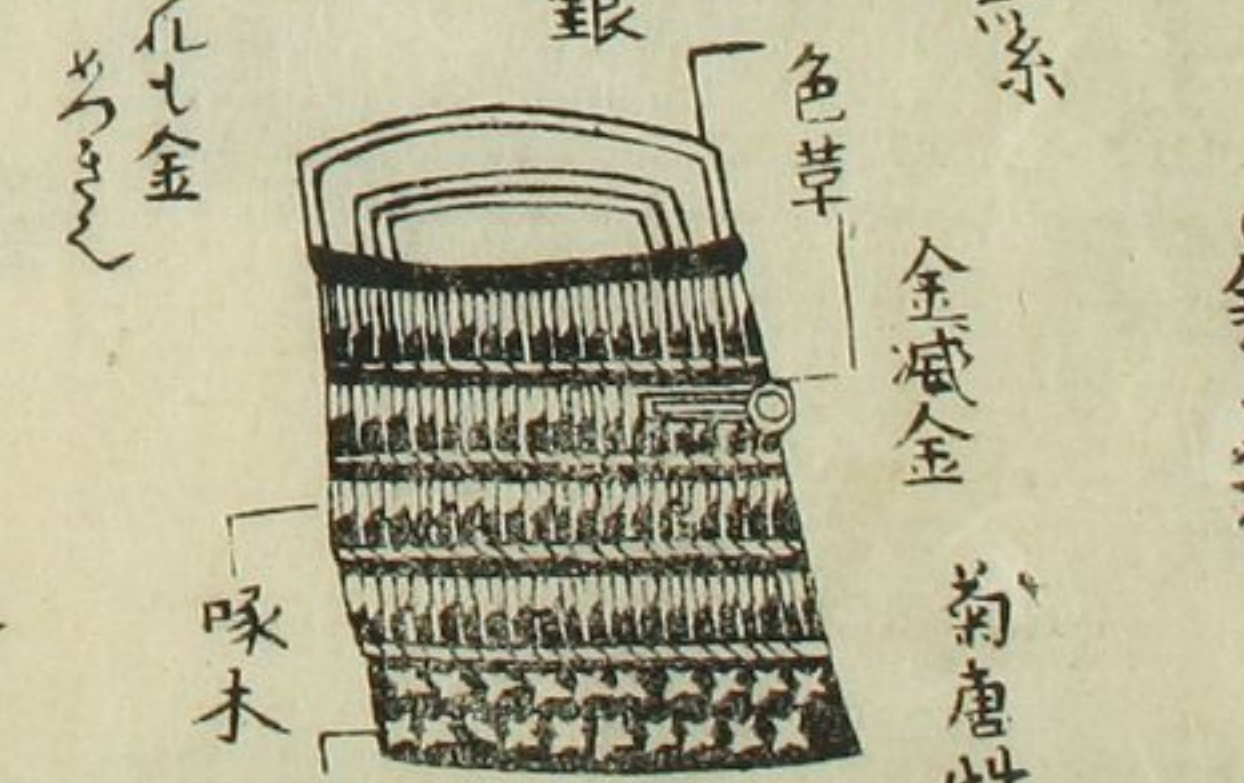
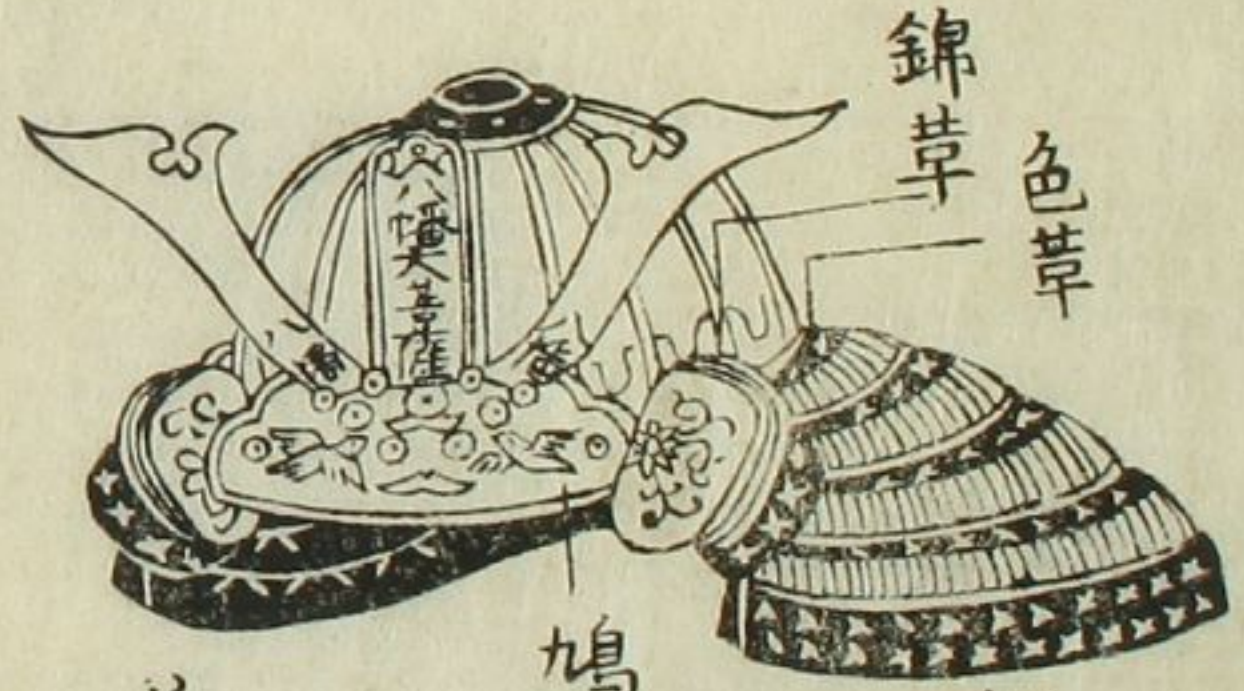
前川有右衛門
願主大坂住
京屋

加州多夫八幡官宝庫
 奇友安盛泉甲大袖臙當
 赤地綿直垂之圖 ○赤地錦直垂之切比

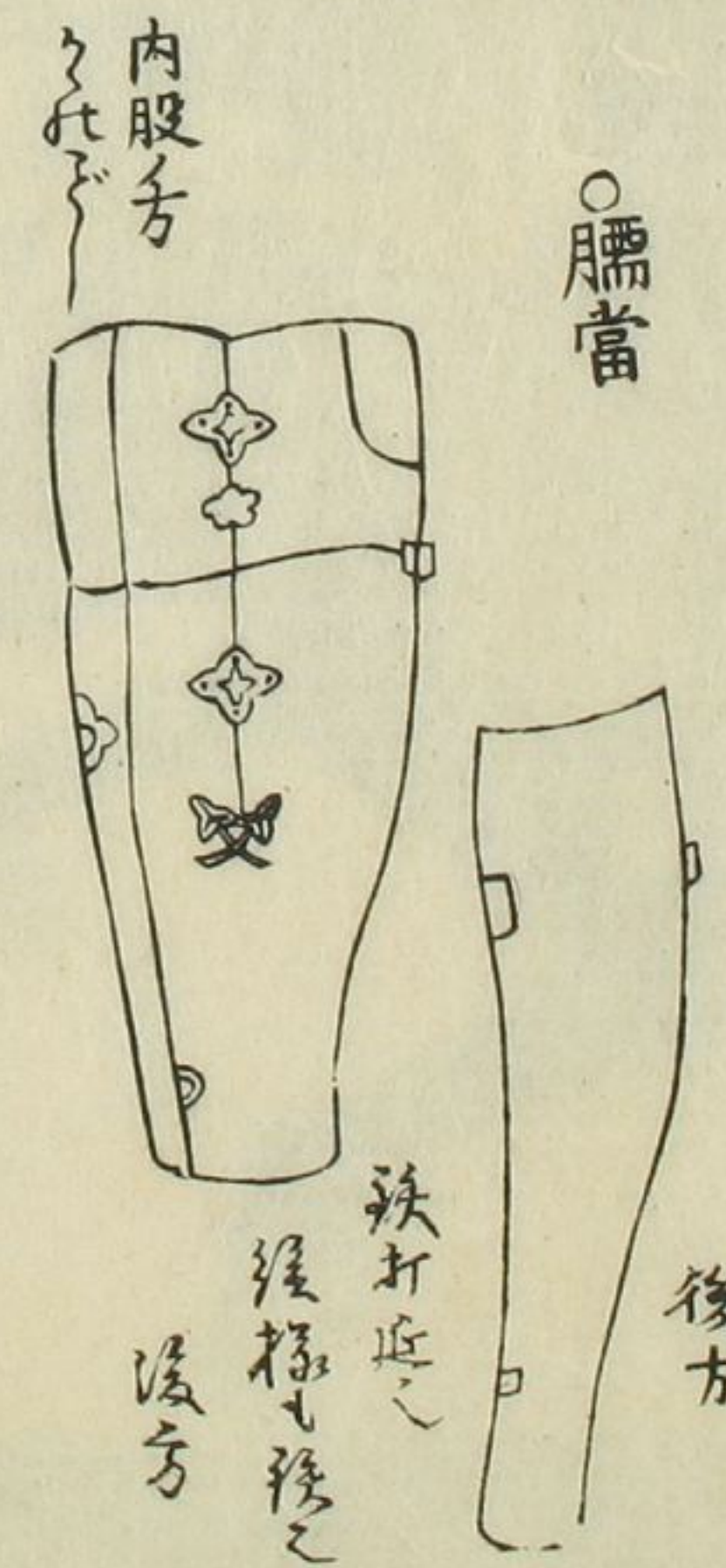


地赤色ノ糸金入

○五枚曾威啄木



○鎧大袖



内股方

○臙當

後方

鉄打近
 経様も後之
 後方

錦草
 色草

紅糸

金減金

菊唐州

鳩銀

色草

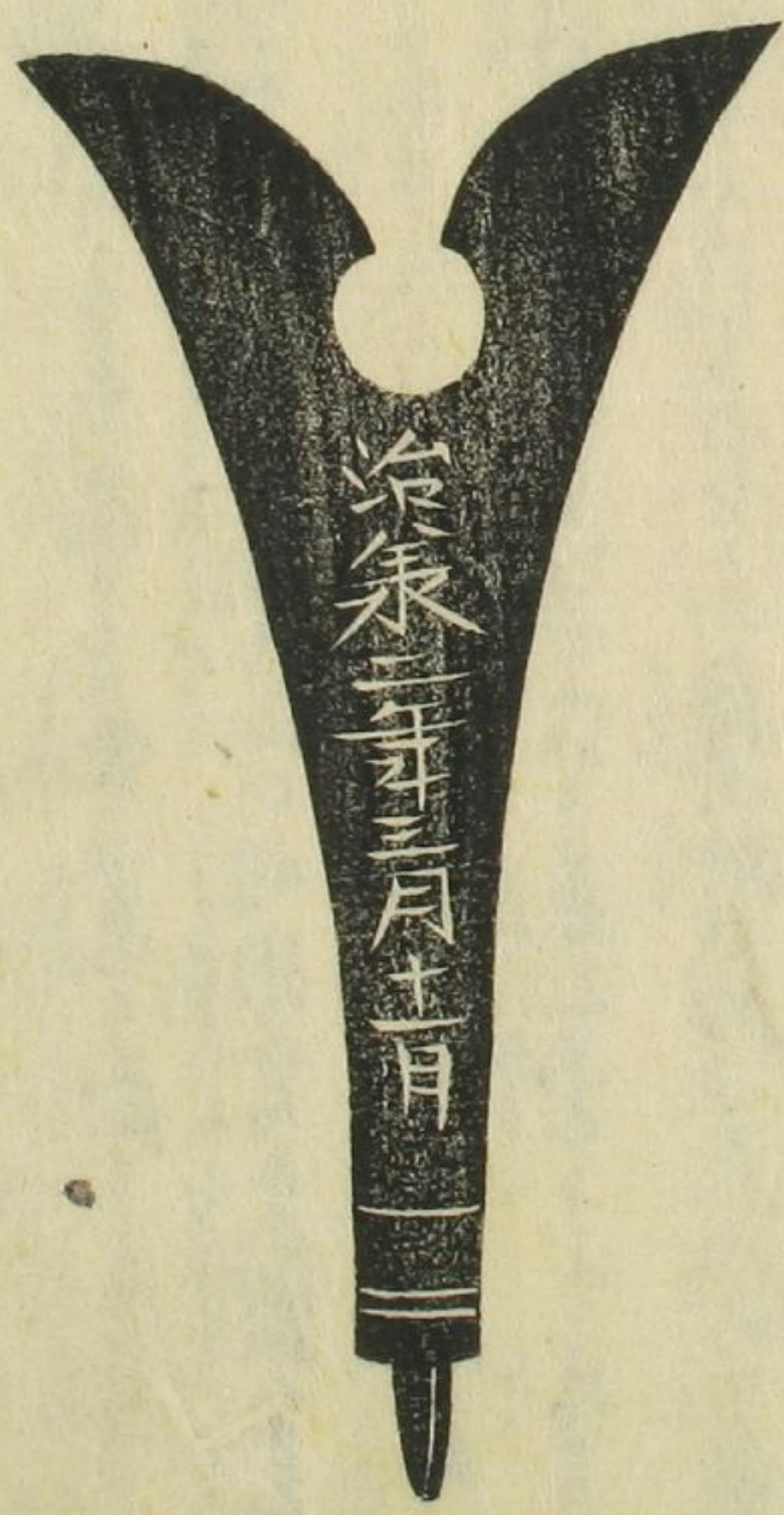
啄木

紅糸

ざんし金
 ちんしん

多志八幡
 對馬の村
 中毛先地あり
 其より後幡男
 のししより村の
 名に依りての太の
 方よまをの法
 あり

實成兵とて物奉納の時辰仲澤とて根裏とて一字あり



治承三年正月

頂て引退く時ふ美盛七十三只一騎より今と信濃國の住人の像を即光盛
 孫より組んて像を即等
 聖長親元より源房小左衛門尉
 聖長元平家お焼く御守に
 討ちて美盛組と美盛渠が鐘の押付の板を鯛と鞍のお桶に引付を
 を捲んとて子振結まぐり美盛よと組でと人馬よりよふ美盛
 と子像が即後を引受て首級斬りて塚其乃不敵の事柄を尋して其邊

